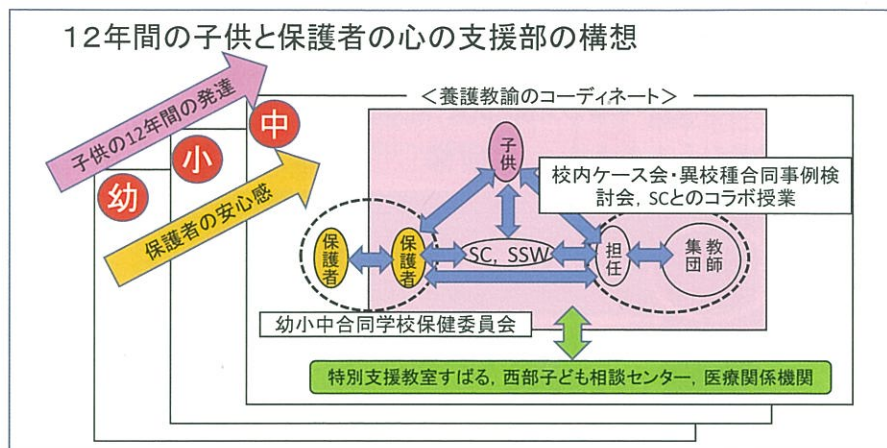


心の支援部の取組

幼小中の養護教諭とスクールカウンセラー（SC）、
スクールソーシャルワーカー（SSW）がコラボして



香川大学医学部臨床心理学科
川人潤子准教授より

2020年度より、私もスクールカウンセラーとしてお世話になります。

私が所属している医学部臨床心理学科は、2018年に誕生した新しい学科です。現代の心の問題は複雑化・多様化しており、その対応にはチームで取り組む体制が重要です。附属坂出学園は、子供・保護者・教員を他職種が繋ぐ環境を構築・実践されており、非常に先進的な取組と感じます。



幼稚園での心の支援部の取組

養護教諭、教員、SCが協働し、子供へのよりよい支援をめざしています。保護者向けの座談会「さくらんぼの会」では、「子供の自己主張をどこまで受け入れたらいいの?」「習い事ベスト3は?」といった話題があり、参加者同士で子育て中の悩みや楽しみを共有しました。

参観日には、副園長による保護者向けワークショップが行われました。保護者同士協力して「子育て川柳」を作り、子育てあるあるについて楽しく分かち合いました。SCも日頃の子供たちとの関りを川柳で発表させていただきました。今後も、保護者の皆様と一緒に子供への支援に取り組んでいきたいと思ひます。



ワークショップの様子

SSWの専門性を活かした授業実践～他者と関わる力を育むSST～

養護教諭、SSWが協働し「他者と関わる力を育むためのソーシャルスキルトレーニング（SST）」を中学2年生対象に行っています。

授業後の振り返りより「お互いを知るよい機会になった」「困っていることや悩んでいることを話すことで気持ちが楽になった」「今までは、話す内容が一番大切だと思っていたけれど、これからは内容だけでなく相手の目を見て、声の大きさにも気を付けて話したい」などの言葉が出てきました。SSTで学習したことを家族や友達とのコミュニケーション、また教科授業のグループワークで活かせるように授業実践に取り組んでいきます。



授業の様子

心の支援部の成果と次年度に向けて

SCの増員と、SSWの配置により、幼小中の連携した多角的な支援体制が一層整いました。以前より子供相談の時間枠が増え、定期的にお話に来る子供や、校内巡回時に子供たちとSCやSSWが関わる場面が増えました。また、面識がある子供と様々な話題で立ち話でき、日常な関係性の中で相談し合える環境づくりに繋がっています。保護者や教職員の相談も、時間枠の確保や定期的な支援がより可能になりました。加えて、小中では、SCやSSWとのSSTの授業や初めての行事に対する不安軽減プログラムを実施する等、様々な支援を行っています。

今後は、小学1年生が少しでも早く学校生活に慣れるような支援を考える等、支援体制の基盤をより強固になるように検討しています。子供や家庭、教職員の誰もが「こんな内容だけど相談してもいいのかな」と思うことでも、まず遠慮なく相談し支え合う環境をめざしていきます。今後ともよろしくお願ひいたします。